

# 四 半 期 報 告 書

(第25期第2四半期)

ユナイテッド株式会社

---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

頁

【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	3
第2 【事業の状況】 .....	4
1 【事業等のリスク】 .....	4
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	4
3 【経営上の重要な契約等】 .....	7
第3 【提出会社の状況】 .....	8
1 【株式等の状況】 .....	8
2 【役員の状況】 .....	10
第4 【経理の状況】 .....	11
1 【四半期連結財務諸表】 .....	12
2 【その他】 .....	25
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	26

四半期レビュー報告書

確認書

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 2021年11月9日

**【四半期会計期間】** 第25期第2四半期(自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)

**【会社名】** ユナイテッド株式会社

**【英訳名】** UNITED, Inc.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 早川 与規

**【本店の所在の場所】** 東京都渋谷区渋谷一丁目2番5号

**【電話番号】** 03 (6821) 0000 (代表)

**【事務連絡者氏名】** 執行役員 経営管理本部長 山下 優司

**【最寄りの連絡場所】** 東京都渋谷区渋谷一丁目2番5号

**【電話番号】** 03 (6821) 0000 (代表)

**【事務連絡者氏名】** 執行役員 経営管理本部長 山下 優司

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第24期 第2四半期 連結累計期間	第25期 第2四半期 連結累計期間	第24期
会計期間	自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	自 2020年4月1日 至 2021年3月31日
売上高 (千円)	11,008,634	8,100,468	16,338,529
経常利益 (千円)	5,560,045	4,553,072	5,645,808
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	3,723,140	3,146,611	3,728,099
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	10,278,028	3,771,877	10,609,276
純資産額 (千円)	36,773,603	38,411,781	36,034,994
総資産額 (千円)	48,090,252	50,294,126	47,356,100
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	166.59	145.89	168.07
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	145.84	—
自己資本比率 (%)	76.0	75.8	75.6
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	6,721,778	2,905,260	6,992,868
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△56,808	△377,196	△171,371
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△306,412	△1,951,715	△1,428,140
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	14,739,635	14,350,490	13,774,158

回次	第24期 第2四半期 連結会計期間	第25期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2020年7月1日 至 2020年9月30日	自 2021年7月1日 至 2021年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	0.74	50.78

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第25期第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、第25期第2四半期連結累計期間及び第25期第2四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。
3. 第24期第2四半期連結累計期間及び第24期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの、希薄化効果を有していないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

（DXプラットフォーム事業）

第1四半期連結会計期間において、当社が㈱リベイスの全株式を取得したため、連結の範囲に含めております。

また、当第2四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であるキラメックス㈱が㈱イケてるやつらの全株式を取得したため、連結の範囲に含めております。

この結果、2021年9月30日現在で、当社グループは、当社、連結子会社14社及び持分法適用関連会社2社により構成されることとなりました。

なお、第1四半期連結会計期間より、組織再編に伴って、一部の部門の帰属セグメントに変更が生じたため、セグメントの内訳について変更を行っております。詳細は「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。この結果、前第2四半期連結累計期間と収益の会計処理が異なることから、以下の経営成績に関する説明において増減額及び前年同期比（％）を記載せずに説明しております。

収益認識会計基準等の適用が財政状態及び経営成績に与える影響の詳細については、「第4 経理の状況 1. 四半期連結財務諸表 注記事項（会計方針の変更）及び（セグメント情報等） 2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)再拡大の影響で、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出されたことにより、昨年度から引き続き経済活動が制限され、ワクチン接種が進んだものの依然として不透明な状況となっております。

こうした環境のもと、企業はビジネスモデルや組織の変革に迫られ、社会におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)(\*1)の必要性が高まっております。一方で、DXを実現する人材は社会全体で不足しており、国内のIT人材に対する需要が供給を上回るペースで増加していき、今後IT人材不足はさらに加速していくと考えられます。

当社グループにおきましては、個人向け事業と法人向け事業の二軸により社会のデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進すべく、「DXプラットフォーム事業」を新たに今後の成長を見込む最注力事業と位置づけております。また、「インベストメント事業」を「DXプラットフォーム事業」と並ぶ成長期待事業、スマートフォン関連領域に特化した「アドテクノロジー(\*2)事業」及び「コンテンツ事業」を収益期待事業と位置づけ、各事業の成長及び収益性の改善に取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

(\*1) デジタルトランスフォーメーション(DX)：企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。

(2018年12月経済産業省公表「デジタルトランスフォーメーションを推進するためのガイドライン（DX推進ガイドライン）Ver. 1.0」より)

(\*2) アドテクノロジー：インターネット広告における広告配信等の技術やシステムを指す。

#### ① 財政状態

##### (資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末と比べ2,938,025千円増加し、50,294,126千円となりました。これは主に、投資先株式の時価評価等の影響により営業投資有価証券が1,366,905千円増加したこと、投資先株式の売却等により現金及び預金が576,331千円増加したこと、(株)リベイス及び(株)イケてるやつらの株式取得に伴いのれんが366,213千円増加したことによるものであります。

(負債の部)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末と比べ561,238千円増加し、11,882,345千円となりました。これは主に、前述の投資先株式の時価評価等の影響により繰延税金負債が206,864千円増加したこと、未払法人税等が158,929千円増加したことによるものであります。

(純資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末と比べ2,376,787千円増加し、38,411,781千円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益3,146,611千円の計上や剰余金の配当415,126千円があったこと等により利益剰余金が2,696,326千円増加したこと、自己株式の消却により資本剰余金が1,727,793千円減少したこと、自己株式が758,466千円減少したこと（主に、取得による増加1,004,724千円及び消却による減少1,727,793千円）及びその他有価証券評価差額金が投資先株式の時価評価等の影響により765,574千円増加したことによるものであります。

② 経営成績

当第2四半期連結累計期間の経営成績は、前第2四半期連結累計期間における投資先株式の売却を行ったことの反動により、売上高は8,100,468千円(前年同四半期は11,008,634千円)となり、営業利益は4,559,352千円(前年同四半期は5,465,316千円)、経常利益は4,553,072千円(前年同四半期は5,560,045千円)、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,146,611千円(前年同四半期は3,723,140千円)となりました。

当第2四半期連結累計期間における各セグメントの概況は、以下のとおりであります。

a. DXプラットフォーム事業

DXプラットフォーム事業は、オンラインプログラミング教育事業を運営するキラメックス㈱、アプリ・システム開発事業を運営する㈱ブリュアス、㈱リベイス、㈱イケてるやつら及びユナイテッド㈱のDXコンサルティング事業により構成されております。

当第2四半期連結累計期間は、オンラインプログラミング教育事業を運営するキラメックス㈱において前期の巣ごもり影響の反動や競合が増加したことにより、売上高は1,105,892千円(前年同四半期は1,237,704千円)、セグメント損失は290,215千円(前年同四半期はセグメント利益51,068千円)となりました。

b. インベストメント事業

インベストメント事業は、シード/アーリーステージを中心としたベンチャー企業への投資を行っております。

当第2四半期連結累計期間は、投資先の営業投資有価証券の売却等を行ったものの、前第2四半期連結累計期間における売却量を下回ったこと等の影響により、売上高は5,045,540千円(前年同四半期は5,609,048千円)、セグメント利益は4,779,223千円(前年同四半期は5,402,001千円)となりました。

c. アドテクノロジー事業

アドテクノロジー事業は、ウェブ広告領域において、SSP『adstir』、DSP『Bypass』、アドネットワーク『HaiNa』を提供するユナイテッドマーケティングテクノロジーズ㈱により構成されております。

当第2四半期連結累計期間は、前連結会計年度で撤退したアプリ広告領域の縮小により売上高は529,824千円(前年同四半期は2,746,256千円)となりましたが、収益性重視の運営に移行したことにより、セグメント利益は299,970千円(前年同四半期は319,051千円)となりました。

d. コンテンツ事業

コンテンツ事業は、スマートフォン向けアプリやウェブサイトを通じた様々なサービスを提供しており、フォッグ㈱、㈱インターナショナルスポーツマーケティング、トレイス㈱及びプラスユー㈱により構成されております。

当第2四半期連結累計期間は、収益期待事業として安定的な収益創出を目指す事業運営の結果、売上高は1,421,587千円(前年同四半期は1,420,847千円)、セグメント利益は251,314千円(前年同四半期は224,063千円)となりました。

③ キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、14,350,490千円となり、前連結会計年度末に比べ576,331千円増加しました。当第2四半期連結会計期間末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は2,905,260千円（前年同期は6,721,778千円の獲得）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益の計上4,553,072千円、法人税等の支払額1,428,616千円があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果支出した資金は377,196千円（前年同期は56,808千円の使用）となりました。これは主に、子会社株式の取得による支出329,036千円があったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果支出した資金は1,951,715千円（前年同期は306,412千円の使用）となりました。これは主に、自己株式の取得による支出1,004,724千円、自己株式取得のための預託金の増加495,220千円及び配当金の支払額415,117千円があったことによるものであります。

(2) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

- 3 【経営上の重要な契約等】  
該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	44,354,400
計	44,354,400

###### ② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2021年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2021年11月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可 金融商品取引業協会名	内容
普通株式	22,471,845	22,471,845	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株式数は100株 であります。
計	22,471,845	22,471,845	—	—

(注) 提出日現在発行数には、2021年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### ① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### ② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2021年7月1日～ 2021年9月30日	—	22,471,845	—	2,923,019	—	1,143,850

## (5) 【大株主の状況】

2021年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の総数に 対する所有 株式数の割合 (%)
デジタル・アドバタイジング・ コンソーシアム(株)	東京都渋谷区恵比寿4丁目20-3	10,217,775	48.15
早川 与規	東京都港区	632,254	2.97
竹内 壮司	愛知県名古屋市中種区	400,000	1.88
(株)コーズベンチャーズ	東京都中央区銀座1丁目14-14	350,000	1.64
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC) (常任代理人 (株)三菱UFJ銀行)	PETERBOROUGH COURT 133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB UNITED KINGDOM (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	266,234	1.25
UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT (常任代理人 シティバンク、エ ヌ・エイ東京支店)	BAHNHOFSTRASSE 45, 8001 ZURICH, SWITZERLAND (東京都新宿区新宿6丁目27-30)	223,014	1.05
田中 龍平	福岡県北九州市小倉北区	185,000	0.87
MSIP CLIENT SECURITIES (常任代理人 モルガン・スタン レーMUFG証券(株))	25 CABOT SQUARE, CANARY WHARF, LONDON E14 4QA, U.K. (東京都千代田区大手町1丁目9-7)	180,273	0.84
CEPLUX- THE INDEPENDENT UCITS PLATFORM 2 (常任代理人 シティバンク、エ ヌ・エイ東京支店)	31, Z. A. BOURMICH, L-8070, BERTRANGE, LUXEMBOURG (東京都新宿区新宿6丁目27-30)	177,800	0.83
STATE STREET BANK CLIENT OMNIBUS OMO4 (常任代理人 香港上海銀行東京 支店)	338 PITT STREET SYDNEY NSW 2000 AUSTRALIA (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	169,855	0.80
計	—	12,802,205	60.32

(注) 上記のほか、当社所有の自己株式1,251,299株があります。

## (6) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

2021年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,251,200	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,204,500	212,045	—
単元未満株式	普通株式 16,145	—	—
発行済株式総数	22,471,845	—	—
総株主の議決権	—	212,045	—

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が300株含まれております。  
また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数3個が含まれております。

## ② 【自己株式等】

2021年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ユナイテッド(株)	東京都渋谷区渋谷一丁目 2番5号	1,251,200	—	1,251,200	5.56
計	—	1,251,200	—	1,251,200	5.56

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2021年7月1日から2021年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	13,774,158	14,350,490
受取手形及び売掛金	1,129,094	1,112,405
営業投資有価証券	30,953,854	32,320,759
棚卸資産	※ 35,019	※ 65,949
その他	228,738	818,426
貸倒引当金	△5,193	△3,546
流動資産合計	46,115,671	48,664,485
固定資産		
有形固定資産	327,246	310,727
無形固定資産		
のれん	-	366,213
その他	229,447	230,375
無形固定資産合計	229,447	596,588
投資その他の資産	683,735	722,324
固定資産合計	1,240,429	1,629,641
資産合計	47,356,100	50,294,126
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	609,706	741,374
短期借入金	100,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	71,040	75,648
未払法人税等	1,415,648	1,574,578
その他	918,455	918,208
流動負債合計	3,114,850	3,409,808
固定負債		
長期借入金	107,300	107,120
繰延税金負債	8,098,955	8,305,820
その他	-	59,596
固定負債合計	8,206,255	8,472,536
負債合計	11,321,106	11,882,345

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,923,019	2,923,019
資本剰余金	2,332,513	605,336
利益剰余金	14,607,662	17,303,989
自己株式	△2,638,347	△1,879,880
株主資本合計	17,224,847	18,952,464
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18,571,825	19,337,400
繰延ヘッジ損益	-	△140,301
為替換算調整勘定	△7,634	△7,642
その他の包括利益累計額合計	18,564,190	19,189,457
新株予約権	245,955	269,859
純資産合計	36,034,994	38,411,781
負債純資産合計	47,356,100	50,294,126

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	11,008,634	8,100,468
売上原価	3,955,399	2,235,564
売上総利益	7,053,235	5,864,904
販売費及び一般管理費	※ 1,587,918	※ 1,305,551
営業利益	5,465,316	4,559,352
営業外収益		
受取利息及び配当金	51	72
持分法による投資利益	87,883	257
その他	10,886	833
営業外収益合計	98,821	1,163
営業外費用		
支払利息	1,662	1,154
為替差損	1,887	497
暗号資産評価損	-	3,134
その他	541	2,657
営業外費用合計	4,092	7,444
経常利益	5,560,045	4,553,072
特別利益		
新株予約権戻入益	8,673	-
特別利益合計	8,673	-
特別損失		
固定資産除却損	3,577	-
事務所移転費用	50,661	-
事業整理損	116,874	-
その他	5,231	-
特別損失合計	176,344	-
税金等調整前四半期純利益	5,392,373	4,553,072
法人税、住民税及び事業税	1,368,962	1,505,343
法人税等調整額	300,270	△98,882
法人税等合計	1,669,232	1,406,460
四半期純利益	3,723,140	3,146,611
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,723,140	3,146,611

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	3,723,140	3,146,611
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,587,569	766,429
繰延ヘッジ損益	△29,314	△140,301
為替換算調整勘定	362	△7
持分法適用会社に対する持分相当額	△3,731	△855
その他の包括利益合計	6,554,887	625,266
四半期包括利益	10,278,028	3,771,877
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,278,028	3,771,877

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	5,392,373	4,553,072
減価償却費	93,788	69,572
事業整理損	116,874	-
のれん償却額	57,440	19,274
株式報酬費用	16,858	28,406
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△5,549	△1,646
受取利息及び受取配当金	△51	△72
支払利息	1,662	1,154
持分法による投資損益 (△は益)	△87,883	△257
固定資産除却損	3,577	-
売上債権の増減額 (△は増加)	590,624	42,849
営業投資有価証券の増減額 (△は増加)	△28,723	△260,640
仕入債務の増減額 (△は減少)	△66,675	130,428
その他	180,155	△247,173
小計	6,264,472	4,334,966
利息及び配当金の受取額	51	72
利息の支払額	△1,848	△1,162
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	459,102	△1,428,616
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,721,778	2,905,260
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△11,957	△2,709
無形固定資産の取得による支出	△78,620	△49,221
投資有価証券の取得による支出	-	△22,744
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	△329,036
その他	33,769	26,514
投資活動によるキャッシュ・フロー	△56,808	△377,196
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△35,520	△36,652
社債の償還による支出	△225,000	-
自己株式の取得による支出	△25	△1,004,724
自己株式取得のための預託金の増減額 (△は増加)	-	△495,220
配当金の支払額	△45,866	△415,117
財務活動によるキャッシュ・フロー	△306,412	△1,951,715
現金及び現金同等物に係る換算差額	△582	△16
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	6,357,975	576,331
現金及び現金同等物の期首残高	8,381,660	13,774,158
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 14,739,635	※ 14,350,490

## 【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間において、株式取得により、㈱リベイスを連結子会社にしております。

また、当第2四半期連結会計期間において、株式取得により、㈱イケてるやつらを連結子会社にしております。

(会計方針の変更)

## 1. 収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用に伴い、アドテクノロジー事業のすべての取引につき、収益の認識を総額から純額へ変更することとしました。また、コンテンツ事業のうち、ゲーム及びウェブサービスにおけるアイテム等の販売に係る収益については、従来ポイント購入時に全額を収益として認識しておりましたが、ポイントに係る収益はポイント使用時又は失効時まで繰り延べ、「契約負債」として認識する方法に変更いたしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,791,628千円減少、売上原価は1,758,256千円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ33,372千円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は35,157千円減少しております。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

## 2. 時価の算定に関する会計基準等の適用

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。これによる四半期連結財務諸表への影響はありません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症について、今後の広がり方や収束時期等を正確に予測することは困難な状況にありますが、当社グループの事業活動及び業績への影響は限定的であることから、四半期連結財務諸表における会計上の見積り及び仮定に与える重要な影響はありません。

## (四半期連結貸借対照表関係)

※ 棚卸資産の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
商品	12,496千円	13,159千円
仕掛品	2,105千円	33,188千円
貯蔵品	20,416千円	19,601千円

## (四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
給与手当	598,386千円	461,776千円
貸倒引当金繰入額	△2,849千円	△1,646千円
のれん償却額	57,440千円	19,274千円

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
現金及び預金	14,739,635千円	14,350,490千円
現金及び現金同等物	14,739,635千円	14,350,490千円

## (株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年6月18日 定時株主総会	普通株式	44,697	2.0	2020年3月31日	2020年6月19日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年11月9日 取締役会	普通株式	335,231	15.0	2020年9月30日	2020年12月9日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月18日 定時株主総会	普通株式	415,126	19.0	2021年3月31日	2021年6月21日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年11月9日 取締役会	普通株式	360,749	17.0	2021年9月30日	2021年12月9日	利益剰余金

## 3. 株主資本の著しい変動

当社は、2021年5月11日開催の取締役会決議に基づき、2021年9月30日までに自己株式652千株を取得しました。  
また、同日開催の取締役会決議に基づき、2021年5月31日付で自己株式1,200千株を消却しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間において資本剰余金が1,727,176千円減少、自己株式が758,466千円減少し、  
当第2四半期連結会計期間末において、資本剰余金が605,336千円、自己株式が1,879,880千円となっております。

## (有価証券関係)

その他有価証券が、企業集団の事業の運営において重要なものとなっており、かつ、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められます。

## その他有価証券

前連結会計年度（2021年3月31日）

(単位：千円)

区分	取得原価	連結貸借対照表 計上額	差額
営業投資有価証券に属するもの			
株式	2,878,419	29,596,500	26,718,081
その他	1,357,353	1,357,353	—
投資有価証券に属するもの			
株式	144,862	146,000	1,138
債券	0	0	—
合計	4,380,635	31,099,855	26,719,219

当第2四半期連結会計期間（2021年9月30日）

(単位：千円)

区分	取得原価	四半期連結貸借対照表 計上額	差額
営業投資有価証券に属するもの			
株式	3,194,542	30,953,122	27,758,580
その他	1,367,636	1,367,636	—
投資有価証券に属するもの			
株式	144,862	144,999	136
債券	22,744	22,784	40
合計	4,729,785	32,488,542	27,758,756

## (収益認識関係)

報告セグメントの売上高に関する情報は、収益認識会計基準における収益の会計処理の定めに基づいております。また、報告セグメントの売上高に関する情報が、収益及びキャッシュ・フローの性質、金額、時期及び不確実性に影響を及ぼす主要な要因に基づく区分に分解した情報として十分であることから、詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」をご参照ください。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	DXプラットフォーム事業	インベストメント事業	アドテクノロジー事業	コンテンツ事業			
売上高							
外部顧客への 売上高	1,234,965	5,609,048	2,746,256	1,418,364	11,008,634	—	11,008,634
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	2,739	—	—	2,483	5,222	△5,222	—
計	1,237,704	5,609,048	2,746,256	1,420,847	11,013,856	△5,222	11,008,634
セグメント利益	51,068	5,402,001	319,051	224,063	5,996,184	△530,868	5,465,316

(注) 1. セグメント利益の調整額△530,868千円は、全額各報告セグメントに配分していない全社費用であり、その主なものは、本社の管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：千円)

	DXプラットフォーム事業	インベストメント事業	アドテクノロジー事業 (注) 1	コンテンツ事業	計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額
減損損失	—	—	116,874	—	116,874	50,661	167,535

(注) 1. 一部サービスの収益性低下を受け、事業の選択と集中を図るための事業整理に係る費用であり、四半期連結損益計算書において「事業整理損」と表示しております。

2. 調整額50,661千円は、全額各報告セグメントに配分していない事務所移転に係る費用であり、四半期連結損益計算書において「事務所移転費用」と表示しております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	DXプラットフォーム事業	インベストメント事業	アドテクノロジー事業	コンテンツ事業			
売上高							
顧客との契約から生じる収益	1,104,776	—	529,824	1,420,327	3,054,928	—	3,054,928
その他の収益	—	5,045,540	—	—	5,045,540	—	5,045,540
外部顧客への売上高	1,104,776	5,045,540	529,824	1,420,327	8,100,468	—	8,100,468
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,116	—	—	1,259	2,375	△2,375	—
計	1,105,892	5,045,540	529,824	1,421,587	8,102,844	△2,375	8,100,468
セグメント利益又は損失(△)	△290,215	4,779,223	299,970	251,314	5,040,292	△480,940	4,559,352

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△480,940千円は、全額各報告セグメントに配分していない全社費用であり、その主なものは、本社の管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の「アドテクノロジー事業」の売上高は1,746,409千円減少し、「コンテンツ事業」の売上高は45,218千円減少、セグメント利益は33,372千円減少しております。

また、組織再編に伴って、一部の部門の帰属セグメントに変更が生じたため、セグメントの内訳について変更を行っております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを記載しております。

## 3. 報告セグメントごとののれんに関する情報

「DXプラットフォーム事業」において、第1四半期連結会計期間において㈱リベイス、当第2四半期連結会計期間において㈱イケてるやつらの株式を取得し子会社化したことにより、連結の範囲に含めております。

これらに伴うのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間において366,213千円であります。

(企業結合等関係)

1. 企業結合に係る暫定的な会計処理の確定 (株リベース)

2021年6月23日に行われた株リベースとの企業結合について、第1四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行っていましたが、当第2四半期連結会計期間に確定しております。

この結果、暫定的に算定されたのれんの金額291,397千円は、会計処理の確定により26,802千円増加し、318,200千円となっております。

なお、のれんの償却方法及び償却期間は、5年間にわたる均等償却となっております。

2. 連結子会社(株)キラメックスの株式取得による(株)イケてるやつらの子会社化

当社の連結子会社であるキラメックス(株)は、2021年6月30日付で、子会社化を目的に(株)イケてるやつらの全株式を取得する株式譲渡契約を締結いたしました。

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称：(株)イケてるやつら

事業の内容：動画クリエイタースクール『MOOCRES (ムークリ)』の運営

② 企業結合を行った主な理由

当社グループが注力するDXプラットフォーム事業のさらなる強化を目的としております。

③ 企業結合日

2021年7月5日

④ 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

⑤ 結合後企業の名称

変更はありません。

⑥ 取得した議決権比率

100%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社の連結子会社であるキラメックス(株)が現金を対価として株式を取得することによるものです。

(2) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2021年7月1日から2021年9月30日まで

(3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

当事者間の合意により非公開とさせていただきます。

(4) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザーに対する報酬等 1,800千円

(5) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

① 発生したのれんの金額

67,288千円

② 発生原因

被取得企業の時価純資産が取得原価を下回ったため、当該差額をのれんとして認識したことによります。

③ 償却方法及び償却期間

5年間にわたる均等償却

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	166円59銭	145円89銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	3,723,140	3,146,611
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	3,723,140	3,146,611
普通株式の期中平均株式数(株)	22,348,794	21,567,699
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	—	145円84銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	—	8,689
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(注) 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、希薄化効果を有していないため記載しておりません。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

第25期（2021年4月1日から2022年3月31日まで）中間配当について、2021年11月9日開催の取締役会において、2021年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

① 配当金の総額	360,749千円
② 1株当たりの金額	17円00銭
③ 支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2021年12月9日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年11月9日

ユナイテッド株式会社  
取締役会 御中

監査法人アヴァンティア

東京都千代田区

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 木村直人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 吉田武史

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているユナイテッド株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2021年7月1日から2021年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ユナイテッド株式会社及び連結子会社の2021年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施

される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。